

平成 21 年 5 月 26 日

各 位

西日本シティ銀行

消費者動向調査 No.104 「夏のボーナス使いみち調査」

西日本シティ銀行(頭取 久保田勇夫)は、消費者動向調査を定期的を実施しております。今般、「夏のボーナス使いみち調査」の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

記

調査結果要約

調査時期：平成 21 年 4 月
調査対象：福岡県内のボーナスがある家庭の主婦 500 人
(うち回答者 490 人、回答率 98.0%)

- ◆ **今年の夏のボーナス支給予想、昨年夏と比較して「少なくなる」が 26.2 ポイント増加。「多くなる」は 10.1 ポイント減少。**
昨年夏よりも、ボーナスが「少なくなる」と予想する割合が大幅増加。
(調査結果本文 2P)
- ◆ **夏のボーナスの使いみち予定、1 位は「貯蓄」で 48.0%。2 位は「旅行・レジャー」で 37.6%。**
夏のボーナスの支出予定 1 位は「貯蓄」の 48.0%で、平成 5 年夏の調査開始以来連続のトップ。
(調査結果本文 3P)
- ◆ **ボーナスを貯蓄する目的、1 位は「将来の生活費補てんのため」が 46.5%。2 位は「将来の教育費のため」が 34.3%。**
貯蓄の目的がより明確となり、“将来の不測の事態に備えた生活防衛”などの意識が高まっているようだ。
(調査結果本文 4P)
- ◆ **ボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が 53.2%で 1 位。「収益性も考えるが、安全性をより重視したい」が 38.7%で 2 位。**
「元本の安全性を重視したい」が昨年冬に比べ 9.8 ポイント増加し 53.2%で再び 1 位。貯蓄の考え方にも“守る”意識が高まっているようだ。
(調査結果本文 5P)
- ◆ **関心がある金融商品は「預貯金」が 71.6%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 28.4%。3 位は「国債」が昨年の冬より順位をひとつ上げ 15.3%。**
株式市場の低迷やサブプライムローン問題の発生などの影響からか「投資信託」は、平成 19 年の冬から減少が続き、「国債」と順位が入れ替わっている。
(調査結果本文 6P)
- ◆ **夏のボーナス、自由に使える金額は、昨年に比べ夫は 12 千円、妻も 7 千円ダウン。**
ボーナスが減るとの支給予想が大幅増加したのを受け、自由に使える金額も減少するようだ。
(調査結果本文 7P)

[調査結果本文はこちら](#)

以 上

この調査に関するお問い合わせは
西日本シティ銀行 広報文化部 堺まで
TEL 092-461-1869